

わが

チャレンジする遠野の未来へ 地域の力に投資

遠野市は、岩手県を縦断する北上高地の中南部に位置し、内陸と沿岸を結ぶ交通の要衝として栄えてきました。冷涼な気候と豊かな自然環境を生かした農林畜産業の振興、特に水稲を中心に、野菜やリンゴ、ホップ、わさびなどの生産のほか、乗用馬の生産にも古く

から取り組んでいます。

本市の人口のピークは、昭和30年の4万7110人ですが、令和2年の国勢調査では2万5366人と年々人口減少が続いています。少子化対策、高度情報化社会の急速な進展や国

際化の潮流など、社会の変化にいち早く適応することが求められている中、本市は、地域おこし協力隊制度や地域活性化起業者制度をはじめとするさまざまな制度を活用し、外国人技能実習生の受け入れなど、多様な人とのつながりを地域の力にしなげながら、明るい未来の実現に向け、新たな取り組みに積極的にチャレンジしています。

ホップの里からビールの里へ ホップ栽培60周年

本市は全国でも有数のホップの生産地ですが、高齢化などにより生産者と生産量が減少傾向にあります。

そのため、民間会社と一体となり「TKプロジェクト」(平成19年)を開始し、「ホップの里」から「ビールの里」の実現に向けて活

動を展開しています。ビールの原料となるホップを栽培するだけでなく、新しい産業が生まれることを目指しています。平成21年には、県立遠野緑峰高校で、ホップ和紙の開発がスタートしました。

また、県外からこの取り組みに賛同される方が、本市でホップ栽



ホップ畑で乾杯



たくさん笑顔が広がるホップ収穫祭

培に取り組み、オリジナルのビールを製造しています。例年8月に開催しているホップ収穫祭は、開催当初は2500人程のイベントでしたが、今では全国から約1万2000人が集うイベントになっています。今年も新型コロナウイルス禍で開催できなかったホップ収穫祭の4年ぶりの開催に向けて準備を進めています。会場は市街地にある蔵の道ひろばをメイン会場に、市街地のにぎわい創出につながるイベントとなるよう企画しています。



地域おこし協力隊員が空き店舗を改築し遠野醸造をオープン



台湾の現地スタッフと共に販売にも挑戦

本市の将来を担う人材育成に向け、本年4月に、教育委員会事務局内に未来づくりサポート室を設置し、児童生徒の学力向上対策、不登校対策、グローバル人材育成、高校魅力化などに取り組みんでいます。

令和4年には、市内の二つの県立高校と「地域・世界の未来を創る人材育

グローバル人材の育成に向け 未来づくりサポート大作戦

現在、ホップ生産は、地域おこし協力隊員などによる新規就農者が増えており、令和4年度の生産量の3分の1は、新規就農者が占めるまでになりました。

令和5年度は、市内でホップ栽培を始めて60年の節目の年を迎えます。ホップ農家の持続可能な生産体制の構築、新規就農者の強化などに取り組み、ホップ収穫量日本一を目指します。

成に向けた連携協定」を締結し、その一環として、台湾でのインターンシップを実施しました。台湾の高級スーパー「裕毛屋」の協力をいただき、両校の生徒6人が11日間にわたって、流通の仕組みや付加価値を高めるブランディング戦略を学びました。帰国後の発表会では、生徒たちの活動への自信や満足感を感じることができ、また、新たな遠野産品の売り込み企画が提案されるなど、生徒たちにとって有意義な研修であったことが伝わりました。

今後は、幼少期から外国人と生の英語に接する機会を設けるなど、国際的な教養やコミュニケーション能力が身に付き、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成にも取り組みたいと考えています。

また、これまでの海外との交流は、姉妹都市との人的交流が中心でしたが、今後は、海外の行政・自治体との交流による信頼関係を構築した上で、外国人技能実習生などの受け入れや、本市の企業技術の提供、地元企業の海外展開といった支援にも取り組みたいと考えています。

空き家問題などの解決へ エリアイノベーション

本市でも空き家問題が大きな課題となっており、現在、約900棟の空き家が存在します。これまでも移住者へのリフォーム補助や空き家バンクの活用などにより、一定の成果は得ているものの、空き家などは増加傾向にあります。その対策の一つとして、本年4月

に官と民が連携し一般財団法人TRC（遠野リノベーションセンター）を設立しました。地域社会全体にとっての財産でもある空き家・空き店舗などをリノベーションし有効に活用することで、中心市街地の活性化や移住対策にもつなげるなど、社会課題に一つ一つ取り組み、活気あるまちづくりに挑戦しています。

プロフィール

- ◆ 面積 825・97 km²
- ◆ 人口 2万4861人
- ◆ 世帯数 1万744世帯

〔将来都市像〕永遠の日本のふるさと
遠野

〔まちの特徴〕柳田国男の『遠野物語』に代表される、地域に息づく豊富な有形・無形の資源を生かした歴史と文化によるまちづくりに取り組んでいます

〔市町村合併〕平成17年10月1日、



遠野市長
多田一彦



遠野市と宮守村の1市1村が合併し、新「遠野市」誕生

〔特産品〕どぶろく、ホップ、わさび、ジンギスカン、明がらす

〔観光〕遠野市立博物館、道の駅遠野風の丘、めがね橋、早池峰山、カッパ淵、五百羅漢

〔イベント〕日本のふるさと遠野まつり、市民の舞台遠野物語ファンタジー、全国やぶさめ競技大会、遠野町家のひなまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「田園環境都市おやま」を未来につなぐ 持続可能なまちづくり

小山市は、東京から北に約60km、栃木県の南部に位置し、国道や鉄道の要衝であり、農業、商工業のバランスが良く、市街地の周辺には農地や平地林などの田園環境が広がっています。

さらに市内中心部を「思川」が



田園環境と都市環境の調和のとれた小山市

流れ、南西には本州以南最大のヨシ原を有するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」が広がるなど、豊かな自然環境と、高級絹織物として全ての工程を手作業で行うユネスコ無形文化遺産「本場結城紬」や、毎年5

月5日に行われ、五穀豊穡・疫病退散を祈願する重要無形民俗文化財「間々田のじゃがまいた」などの、連綿と受け継がれてきた歴史や伝統、文化によって形成された、首都圏の中でも有数の田園環境と都市環境の調和のとれた、ゆとりと潤いのある「田園環境都市」です。

渡良瀬遊水地×コウノトリ

この田園環境都市の象徴の一つが、渡良瀬遊水地に定着した特別天然記念物「コウノトリ」であり、本年も4年連続でヒナが誕生しました。

コウノトリは湿地などの水辺生態系において食物連鎖の頂点に立つ大型の肉食の水鳥で、コウノトリが生息し繁殖できるといことは、渡良瀬遊水地の周辺は生態系が豊かでバランスの保たれた状態

であることの証しであり、これは人にとっても安全安心な環境であることを意味します。

市では、絶滅危惧種を含む貴重な動植物が生息・生育し、自然の宝庫である渡良瀬遊水地を大切に守り未来に引き継ぐため、令和元年、ドローン等無人飛行機の飛行禁止等を盛り込んだ「渡良瀬遊水地の保全と再生及び賢明な活用に関する条例」を制定したほか、令和2年には、古民家をリノベーションした「渡良瀬遊水地コウノトリ交流館」を情報発信の拠点として、さまざまな企画展や環境学習などを実施しております。また、地域住民や民間団体などと連携し、年に複数回、外来植物の除去活動を実施しており、毎年度全ての回に5人以上で参加した団体を「湿地保全サポート団体」とし



母鳥が戻り喜ぶヒナ

提供:わたらせ未来基金

て表彰するなど、官民連携で保全・再生活動に取り組んでいるところです。

いのちを育む オーガニックビレッジ宣言!

このような豊かな生態系を維持し、人にとっても安全安心な食を確保するため、市では平成23年から、冬期も田んぼに水を張る自然農法「ふゆみずたんぼ」に取り組んでおります。水中で分解された稲株やわらから発生した微生物な



間々田のじゃがまいた

どを餌として、さまざまな生き物が田んぼに集まり、豊かな生物環境が生まれるとともに、それらの生物活動に伴い雑草が抑制され天然の堆肥が作られることから、農薬や化学肥料に頼らない環境にやさしい有機農業として、現在市内9カ所の圃場^{ほぼ}で実験田を展開しているところだ。

また本年3月には、有機農業の拡大を図るため、生産者から消費者まで一体となり、有機農産物などの生産拡大や学校給食への導入

などに取り組もうとする「オーガニックビレッジ」を宣言しました。生産者への技術指導や流通業者も交えた意見交換会、消費者などへのオーガニック講座の開催など、人・いのちを大切にす有機農業への理解を深めるため、さまざまな施策を実施しております。

市民が主役のまちづくりへ

この魅力あふれる地域資源に恵まれた本市を、将来にわたり持続的に発展させていくためには、行政主導ではなく、市民目線に立った、市民が主役のまちづくりが何よりも大切です。

市では、市民が求める政策の実現に向け、「徹底した市民との対話と連携」を市政運営の基本理念に掲げ、さまざまな場面で市民の声を聴き、対話を重ね、本市の将来像について意見を交換しております。特に、市民が運営の主体となり毎回さまざまなテーマについて市長と市民が語り合う「市民フォーラム」は、若い世代からの参加も多く、本市の魅力を再認識する契機となるなど、シビックプライドの育成に貢献しております。

未来を描く「田園環境都市おやまビジョン」

先行きが不透明で突発的に激しい変化が発生する現代社会において、主体的・能動的にその変化に対応するためには、自らの存在価値を把握し自らが実現したい理想像を描くことが大切です。

市では現在、30年後の本市のあべき姿を描く「田園環境都市おやまビジョン」の策定に向け、その基礎資料として、3カ年かけて

プロフィール

- ◆ 面積 171.75 km²
- ◆ 人口 16万6206人
- ◆ 世帯数 7万1710世帯

〔将来都市像〕「ひと」「まち」「くらし」がいっきき 未来へつながる おやま

〔まちの特徴〕農業・商工業のバランスが良く、数多くの歴史的・文化的財産を有する田園環境と都市環境の調和がとれたまち



小山市長 浅野正富



〔特産品〕二条大麦（ビール麦）、小麦、はと麦、本場結城紬、おやま和牛、おとん（小山の豚）、かんびょう

〔観光〕渡良瀬遊水地

〔イベント〕おやまサマーフェスティバル、間々田のじゃがまいた、おやま二千本桜まつり など

市内各地区でアンケートや聞き取りを行い、将来に引き継ぎたい大切なモノをまとめる「風土性調査」を実施しています。

市民一人一人が足元を見つめ直し、どのような将来像を描くのか、じっくりと丁寧に向き合うことで本当の意味でのまちづくりが達成できると考えております。

今後も、市民がふるさと小山に誇りと愛着を持ち、住み続けたいと思えるよう全力で取り組んでまいります。

※面積は国土院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

古からつながる時を感じて、 過去と未来をむすぶまち

羽曳野

羽曳野市は、大阪府の南東部に位置し、生駒、信貴、金剛、葛城山系に囲まれた河内平野の中にあ

り、東は二上山系を経て奈良県と接しており、豊かな自然と歴史的名所に恵まれたまちです。その一方で、市内やその周辺には、広域的な幹線道路が通っているほか、

五つの鉄道駅を有しており、大阪市内に30分程度でアクセスできる交通の便の良いまちでもあります。

市東部には、二上山系の斜面を利用して広大な果樹園が形成され、農作物の栽培に適しています。なにわ伝統野菜に登録された確井豌豆、夏の味覚ブドウや関西では最も多い生産量を誇るイチジクをはじめ、130年の歴史を持つ食肉加工品なども特産品として有名です。

特に、ブドウの産地として全国

No.1に輝いたことがあり、昭和初期より地元産のブドウを使用したワイン醸造が盛んです。市内には三つのワイナリーがあり、産地ならではのさまざまな品種を使った芳醇な味わいの「大阪ワイン」を楽しむことができます。

世界遺産と日本遺産のあるまち

市内には、大小合わせて多くの古墳があり、人々の身近な暮らしの中で大切に守られてきました。

特に、令和元年に世界遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群」（古市エリア）の一つである応神天皇陵古墳は、日本最大級の規模を誇り、墳丘の横にある散策路を歩けば、その壮大さを実感できます。春には菜の花、秋にはコスモスを楽しむこともできます。また、本

古墳の南には、日本最古の八幡宮と言われ、応神天皇を主祭神とする誉田八幡宮が鎮座しています。秋季大祭では神輿が「応神天皇陵」に渡御する祭祀も行われ、両者の深いつながりを知ることができます。

また、日本遺産に認定されている日本最古の官道「竹内街道」を進むと、『古事記』『日本書紀』に



＊世界遺産×日本遺産×食、のまち羽曳野市

登場する日本武尊（ヤマトタケルノミコト）の陵墓とされる白鳥陵古墳があります。各国遠征の帰途に息をひきとった日本武尊が、白鳥に姿を変えてこの地に舞い降りたとされる「白鳥伝説」の舞台です。天高く飛びさった様子が「羽を曳くが如く」と伝わり、「羽曳野」の名の由来となっています。周濠越しに青々と樹木が茂る大きな墳丘を眺めることができ、日本遺産と世界遺産が重なる、なんともぜいたくなスポットとなっています。

そうした、古から続く歴史文化も、本市の大きな魅力となっています。

まちの魅力向上への挑戦

全国的に人口減少や少子高齢化の急速な進展が社会問題となっており、大阪都市圏のベッドタウンとして住宅団地開発などにより発展してきた本市においても、平成12年の11万9246人をピークに人口減少に転じています。このよ



応神天皇陵古墳



古市古墳群

うな私たちを取り巻く大きな社会環境の変化の中において、今を生きる市民一人一人が豊かさを実感でき、持続可能で魅力あるまちづくりを実現していくことが重要であります。

そのため、さまざまな市政情報を発信するとともに、広聴機能を充実させ、市民と行政の情報共有を図り、地域課題の解決に向けた協働による体制づくりにも取り組んでいます。また、民間事業者とのパートナーシップの強化を図り、これまで成し得なかった新たな視点と発想による行財政運営を一貫して行っています。

令和4年には、民間事業者と連携して、一般財団法人大阪はびき

の観光局を設立し、本市を中心とした近隣地域を持つ歴史・文化・産業その他の特性を生かし、観光によるまちづくりを通じた地域の活性化を目指しています。

今後は、2025年大阪・関西万博の開催などの機会を通じて、市と観光局が連携して、来訪者が求める魅力的な観光コンテンツの作成や、戦略的なプロモーションを行うとともに、羽曳野を訪れて、良かったと感じていただけるよう、「世界遺産と日本遺産のあるまち」にふさわしい環境整備や機能の充実を図ってまいります。

また、次代を担う子どもが将来に明るい希望を持ち、しっかりと成長していくことができるように、また、保護者が喜びを感じて子育てができるよう、包括的な支援に取り組んでいます。

令和3年度には子ども医療費助成制度の対象年齢を18歳の年度末まで拡大し、令和4年度には、国のこども家庭庁の発足に先立ち、「こどもえがお部」を設置し、子どもや家庭が

抱えるさまざまな課題に組織横断的な対応を図っています。

令和5年度からは、0〜2歳児の保育料について、第2子を半額化、第3子以降を無償化するほか、学校給食費についても、第3子以降に対して小学校で全額助成、中学校で半額助成を実施するなど、乳幼児期から学齢期まで切れ目のない支援に取り組んでいます。

「未来」の象徴である子どもたちの笑顔が輝き、そのあふれる笑

プロフィール



羽曳野市長
山入端 創

- ◆ 面積 26・45 km²
- ◆ 人口 10万8651人
- ◆ 世帯数 5万1511世帯

〔将来都市像〕ひと、自然、歴史文化を育み笑顔輝くはびきのくみんなでつくる だれもが住みたいまち

〔まちの特徴〕古市古墳群をはじめとする数多くの歴史資産と豊かな自然に恵まれた、交通アクセスが良好な住みよいまち



〔特産品〕ブドウ、ワイン、イチジク、碓井豌豆、さいぼし(馬肉のくんせい)、油かす

〔観光〕古市古墳群、竹内街道、吉村家住宅、畑田家住宅、菅田八幡宮、壺井八幡宮、源氏三代墓、道の駅しらとの郷・羽曳野

〔イベント〕はびきの市民フェスティバル、菅田八幡宮例祭、古市だんじり祭り、杜本神社例祭

顔が、未来への希望が、健康や安全と相まって「安心」した暮らしへつながり、暮らしの充実が、このまちの文化や「魅力」の向上へつながる。そしてそれが、人が集い、にぎわい、活気あふれる「未来」のまちの姿へとつながる。この「幸せむすぶ」好循環によって、古から引き継いできた羽曳野の魅力を次世代へつなぐために、まちの持続的な発展をより確かなものにしてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

時代の真潮に乗ってこぐ

バランスの良いまち

宇城市は、平成17年に5町が合併して誕生しました。熊本県のほぼ中央に位置し、九州の経済大動脈である国道3号と、西は天草、東は宮崎県への結末点という地理的状况に恵まれ、美しい田園風景と不知火海に彩られた自然景観、

圏へのアクセスの良さも相まって、ベッドタウンとしての側面も持っています。

都市的機能を併せ持つバランスの取れた水と緑と心豊かなまちであり、熊本都市

主な産業は農業で、水稲から施設園芸、果樹、花きと幅広い品種が栽培されています。干拓地に広がる水田地帯では、水稲を中心にトマトなどの施設野菜、レンコンなどの露地野菜を組み合わせた営農が行われ、半島部の傾斜地や山間部では、デコポンをはじめとした果樹や、今をときめくシャインマスカットなどが栽培されています。

また、市内には集客力のある直売所があり、農産物のブランド化や6次産業化など、地域農業が発展するポテンシャルを有しているのも特徴です。

しかしながら、干拓地は江戸時代の干拓以降、抜本

的な基盤整備がなされておらず、数々の問題を抱えていることから、耕作放棄地を増やさず農業の継続性担保による稼ぐ農業への転換を目指し、令和2年度から受益面積777ha、事業期間14年を見込む国営緊急農地再編整備事業が行われています。

まちづくりの方向性

本市でも人口減少と高齢化が進行しています。人口減少がもたらす税収の減少や地域経済の悪化、都市機能の衰退や集落機能の低下からつながる、さらなる人口流出といった「負のスパイラル」を防ぐため、「育てる」「住み続ける」「持続する」「選ばれる」「活躍する」まちづくりを進めています。

コロナ禍では、国の臨時交付金を主な財源とし、計4回のプレミ



カフェ併設の民間指定管理美術館・図書館

ーム付き商品券を発行しました。巣ごもりや物価高騰による家計負担増を支えるとともに、冷え込んだ市内経済に脈動を与えたこの事業も、本市の財政を圧迫することなく、市民の皆さまに時期を逃さず還元することが、目指す将来都市像「ちようどいい！住みやすさを実感できる都市（まち）・宇城」の体現との思いからです。

宇城ism

人口減少に歯止めをかけるため、将来を担う子どもたちに関す



明治築港当時の完全な形で残っている世界文化遺産「三角西港」



デコポンは不知火町が発祥の地



「UKINISUM」はパンフレットや動画も充実(写真は動画抜粋)

並行して、子育て世代のみならず多様な世代を市内に呼び込むべく、主義や流儀を表す「ism」と宇城に住むを掛け合わせた「UKINISUM(ウキニスム)」をキャッチフレーズとしたシティープロモーションを展開し、本市に「集う」「暮らす」「活躍する」関係人口を創出する取り組みを実施しています。その成果として、令



海上にある鳥居を囲むように幻想的な花火の打ち上げ

る分野には特に注力しており、子育て世帯への負担軽減策として、幼稚園・保育園の副食費無料化や第3子以降の保育料無料化、高校卒業までの医療費の助成などを行っています。8月には、妊娠から出産後までの支援体制を強化するため「こどもセンター」がオープンするとともに、8月末から市内全小中学校の給食費を無料化します。

和4年度の空き家バンクの成約件数が対前年度比24.1%となりました。不動産会社や建築会社などへの聞き取りにより把握したニーズを反映した改修補助制度の拡充がマッチングを促し、現地に行かなくても360度屋内を見渡すことができるウェブサイトの構築が大きな要因です。

また、人口動態が2年連続で社会増になったことも見逃せません。自然減を加味すると正味増までは至っていませんが、本市にとっては明るい兆しです。

積み重ねを源に

このように、選択と集中による予算投下が実行できることは、行財政改革を抜きに語ることはできません。

本市では、財政健全化のため、これまで主に施設の統廃合および譲渡と市役所改革に取り組んできました。結果、公共施設の延べ床面積は熊本地震による復興住宅棟の建設による増を含めても、約1万1000㎡の減となっています。さらに、給食費無料化に当たっては、市内小中学校17校のうち、自校式給食校7校の全てを給

食センター方式に統合し、効率化による経費削減を財源の一部にするとともに、衛生基準の順守と給食費の平準化を両立します。行政改革の分野では、令和2年度から「新たな価値を創造する市役所改革」を基本理念に市役所改革プランを実行しています。役所目線から利用者目線への転換と同時に、組織風土を改革マインドへと転換し、デジタル技術と民間活

力を生かして前例踏襲によらない新たなチャレンジを続けており、令和3年からは若手職員を中心にプロジェクトチームを立ち上げています。本年度は地方創生人材支援制度を活用し、LINEを活用したデジタル市役所への取り組みを推進しています。全ての終着点は「好循環のまち」「大きくなくてもちよいどいい、ここがいいと皆が思うまち」。

プロフィール

- ◆ 面積 188.6 km²
- ◆ 人口 5万7210人
- ◆ 世帯数 2万5105世帯

〔将来都市像〕 ちよいどいいー住みやすさを実現できる都市(まち)・宇城

〔まちの特徴〕 九州の大動脈とJR本線・支線、港を持ち、自然景観と都市的機能を併せ持つバランスの取れたまち

〔市町村合併〕 平成17年1月15日、旧宇土郡三角町、不知火町、下益城郡松橋町、小川町、豊野町の5町が合併



宇城市長 守田憲史



〔特産品〕 このしろ、みみイカ、シヤク、デコポン、洋ラン、メロン、ブドウ、太秋、干し柿、トマト、しょうが

〔観光〕 世界遺産 三角西港、西の大宰府 舞鶴文殊堂、カフェ併設の民間指定管理図書館・美術館、神秘的火不知火

〔イベント〕 観光物産フェア Utsunomiya、オールドカーフェスティバル、ふるさと祭り、小川蚤の市

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。